

地球通信

KOKUSAI KOTOKU GAKUIN
学校法人 国際ことば学院

学校法人 国際ことば学院 法人本部事務局
〒422-8076 静岡市駿河区八幡3-2-12
TEL:054-286-0788 FAX:054-260-7836
<http://www.kotoba.ac.jp>

神々が宿る国ネパール

ちょうどティハールというお祭りが終わったばかりで、お祭りの名残りがそこここに残っているカトマンズに到着したのは2025年10月25日の23:35。空港前の家々には小さな光の飾りが施されていて、ティハールが光の祭だということがわかる。

今回の目的の一つに、シヴァ神を祭るネパール最大のヒンズー教寺院パシュパティナートへの訪問があった。川沿いに建てられており、死者が運ばれ、焼かれ、その灰を聖なるガンジス川(ここでは、ガンジス川の支流バグマティ川)に流すという水葬が行われる。ほぼ毎日執り行われるという水葬が、幸か不幸か、私たちが訪問した日には行われなかった。

しかし、シヴァ神への感謝と祈りを込めたアラティ(Arati)という儀式に参加することができた。僧侶が灯す炎の輪、鳴り響く太鼓や鈴の音、炊かれるお香の煙と香りがいっぱい広がる。そして僧侶のマントラの詠唱が辺り一面を独特の雰囲気包み込む。儀式は神聖ではあるが決して堅苦しいわけではなく、人々が敬愛を持って自分たちの身近にいて温かく見守ってくれるシヴァ神を崇めている様子が見える。儀式の最後には、僧侶のマントラに合わせ、まるで万歳を言っているように、人々全員でシヴァ神賛美の掛け声を唱える。老いも若きも、その場に灯されている火に手をかざし、神様からの恵みを浴びようと、頭や顔、体全体にその手をなでつける。これがネパールの(ヒンズー教の)精神世界であり伝統文化であることを感慨深く思いながら、ふと、ネパール人学生達の姿が重なった。

ネパールを日本と比較することなどできない。同じステージで論じることがナンセンスである。にもかかわらず、価値観の全く異なる日本に多くの留学生がやってくる。海外に出て豊かな生活とやらを目指す。何が豊かなのかあまりわからず……。親に家を建ててあげたい、海外旅行にも行きたい、車を買って豪華な食事や生活をしたい……。若者が夢を見ることは決して間違っていないが、物欲を満たすことと心の幸せとは全く別物であることに気づくのはずっと後になる。心の豊かさはお金では買えないということを悟るに彼らはまだ若すぎる。そう明言できるのは、インフラ整備がままならないのもネパールという国が地上よりも神様への距離が近いからであり、神様の創造物としか思えないほどの圧倒的な自然の姿がその精神世界をどこまでも霊的にするからである。

合理性や道理だけで世の中を理解する者にはこの地は馴染めないかもしれない。先進国の価値観を持ち込むこともここにはそぐわない。その場所にはその場所のあるべき姿があり、ここにこそネパールのあるべき姿があると思った。日本は日本。ネパールはネパール。まず、別物であることを受け止めよう。今回の旅が日本の物差しでは測れないネパール人学生への理解を一層深め、学校と学生との信頼関係をより強くつなげてくれることを願っている。

理事長 袴田 靖子



アクティビティDAY

9月26日金曜日にツインメッセで第1回アクティビティDayが行われました。楽しむことと学生間の交流を目的とした新しい行事です。1・2年混合で4チームに分かれて様々なゲームで競い合い、優勝は輪投げで高得点をとった緑チームでした。準備期間が短かったにもかかわらず、クラスリーダーの協力もあってなんとかイベントの目的は達成できました。（山内）

チームワークとコミュニケーションが大切な様々なゲームをしました。最初は緊張しましたが、ゲームを続けるうちに慣れてきて、クラスメイトと協力する楽しさを感じました。私たちのチームは一生懸命頑張って、ついに優勝しました。とても楽しく忘れられない思い出になりました。

1年生と2年生の皆さんと一緒に楽しい一日を過ごすことができました。作戦を立てて勝てるように頑張りました。また来年も開催した方が入学してくる学生たちのために、先輩と先生を知る良い機会になると思います。

これまでのイベントの中で一番楽しく、多くの留学生と交流できました。留学生たちと体を動かすのはとても面白く、日本人だけのイベントでは味わえない雰囲気や熱意を感じ、この学校らしいものになったと思います。

入学して初めてみんなで力を合わせて戦い、チームのみんなと仲良くなれました。またやりたいです！



餃子パーティー

毎年恒例になりつつある餃子パーティーの様子です。参加人数16名で、特に日本人学生に大人気のイベントでした。

独特な形の餃子を作っているベトナム人学生を発見。聞くと母国にも同じように具を生地で包む料理があるそうです。個性豊かな餃子を皆で食べるのはとても好吃（おいしい）！おいしい餃子を頬張りながら、学生同士の交流も楽しみました。学生にとって価値のある時間になったと思います。



外壁工事

校舎の色が新しくなりました！
工事中、学生達は「何色になるんですか？」と興味津々の様子でした。
学校の雰囲気がガラリと変わりました！お越しの際は通り過ぎないようにご注意ください！






KKG HALLOWEEN



今年は10月30日（木）がハロウィーンの仮装の日でした。1年生を中心にたくさんの学生や先生が、思い思いの仮装をして楽しみました。学生たちから寄せられたコメントのいくつかをご紹介します。（田中）

“It was my first Halloween experience in school.
I enjoyed it. 🎃 👻”

“I think we had very nice Halloween last week at school. I found it very amazing and I think everyone had a great time. The teachers were also dressing up according to Halloween theme. It was fun!”



“That was happy and enjoyable Halloween day with schoolmates and teachers. We spent that day wearing costumes. We had a lot of fun!”

“Such a fun time with friends at school!
Awesome costumes, great company & spooky vibes. 🎃 Can't wait for next year! 😊”

ハロウィンを初めて経験したけど楽しかったという声が多く聞かれました！



森下学区運動会

9月28日（日）森下学区の運動会に留学生が参加してきました。今回、参加したうちの2名の外国人留学生に、どんなことを感じていたのかインタビューしてみました。（聞き手：のだ校長）

のだ：先日は森下学区の運動会に参加してくれてありがとうございました。はじめて体験した種目もありましたか？

ケリー：はい。ドッジボールははじめてやりました。とても楽しかったので、印象に残っています。

のだ：ところで、みなさんの国にも「運動会」って、あるんですか？

キエット：ベトナムにはあのような運動会はありませんね。町の人みんなで参加するイベントっていうのは、ないんです。

ケリー：南アフリカでは、小学校から高校まで学校で行われていますね。目的は、「みんなで協力するためにがんばる」という教育のためのようです。

キエット：日本の運動会では、いろいろな意味があるみたいですね。健康のために開かれるってのがとてもいいですね。

ケリー：私もそう思います。町の人みんなと一緒に何かに参加するっていうのは私の国ではないのでそれがとても素晴らしいと思いました。

いろいろな日本人と話せることができました。

のだ：そうですね。学校の運動会とはそこが大きな違いですね。

ケリー：これって、日本文化なのかなって、ずっと考えていました。

キエット：同じ町の人とみんなで、同じお弁当を食べるとか、とてもユニークでした。

ケリー：賞で「サララップ」もらえるのもおもしろかったですね。

のだ：また町のイベントがあったらご案内しますね。ぜひ、また参加してください。

キエット・ケリー：はい、また参加したいです。

町内のみなさま、ありがとうございました。次回、11月24日（月）ときめき収穫祭に参加します☆

キエットさん ケリーさん



Aクラスはラジオドラマの制作を行いました。このラジオドラマは、2年生の中でいちばん楽しかった活動でした。4つのチームに分かれ、自分たちでストーリーを考えました。登場人物を決めたり、セリフを考えたりするのがとてもおもしろかったです。ちょっと意見がぶつかることもあったけど、みんなで協力してがんばりました。録音のときは少し緊張したけれど、楽しくできました。それに、先生たちにもいろいろ認められて、本当にうれしかったです。（カイ・イー）



Eクラスは日本に住む外国人として災害のときにどう行動すればいいかを新入生にもわかりやすいように防災ハンドブックを作りました。まず、防災センターへ行って、防災について学びました。そこで地震体験や避難の方法、非常持ち出し品などを詳しく知ることができました。その後、誰でも理解しやすいようにまとめました。このハンドブックを通して新入生が安心して生活できるようになればうれしいです。作ることで防災の知識が深まり、大切さも学びました（チャン）



頂上目指して！ 富士登山2025

8月4日（月）に毎年恒例の富士登山へ行ってまいりました！今年は参加希望者を1年生からも募り、全部で47名の学生が参加しました。五合目の登山口で準備運動と入山証の確認を終えた後、意気揚々と階段を上っていった学生たち。六合目では目下の広がる雲、森、海に心を弾ませ、パシャパシャと写真を撮っていましたが、七合目、八合目と標高が上がるにつれて、口数が減り、九合目を過ぎるころにはへとへとになりながらも、荷物を持ってあげたり、食べ物を分け合ったりして、助け合いながら頂上を目指していきました。（ちなみに、ネパールの学生たちはまるで散歩でもするかのようにスイスイ上り、3時間もかからず登頂していました。）例年、登頂する学生はおよそ半数といったところですが、今年は天候にも恵まれてか、30名以上の学生が、頂上にたどり着きました。ぜひ来年も…とりたいところですが、入山料の値上がりなど、様々な状況を考慮し、本校の学校行事としては最後の富士登山とさせていただきます。来年以降はまた何か別の形で富士を体験してもらえらる行事を企画していきたいと思っております。



2025/9/28(sun) 感謝祭



9月28日（日）、富士市交流プラザで第11回感謝祭を行いました。交流イベントでは、Cクラスによる各国のレシピ紹介スタンプラリーが行われました。会場にいらっしたお客様と、レシピの説明を通して自国の文化を紹介するいい機会となったと思います。ステージでは、学生全員によるオープニングから始まり、スピーチでは、2年生クラスから6名の出場者が緊張の中、日頃の練習の成果を披露しました。続くステージ部門は、グローバルステージ、クラスステージの2部構成。グローバルステージでは在校生と卒業生によるインドネシアのバンドから始まり、ネパール、ミャンマー、ペルー、スリランカのダンスパフォーマンスが行われ、会場から歓声が湧きあがりました。クラスステージでは、Aクラスによる「やさしい日本語」から始まり、どのような言葉が日本語を学ぶ学生にとってわかりにくいのか、日常会話の例とともにわかりやすく紹介してくれました。次のBクラスによる劇「白雪姫」では、ユモアたっぷりの内容に会場は笑いに包まれました。最後の1年生による歌では、「世界にひとつだけの花」を1年生59名で歌いあげました。今年のテーマは「113人の主人公」。学生ひとり一人が主役となってほしい。そんな想いを込めた感謝祭となりました。



学校法人 国際ことば学院 お知らせ

国際ことば学院外国語専門学校

～入学試験のご案内～

◆入学試験日：12月13日(土) ◆出願締切日：12月5日(金)

※定員になり次第募集締切りとなりますので、詳しくはホームページをご覧ください。



HPIはこちらから

Multilingual 未續 Library 便り⑨

秋の一冊 “A color of his own” by Leo Lionni / 「自分だけの色」谷川俊太郎 訳
-いろいろな探したカメレオンの話-

“Parrots are green, goldfish are red.” (オウムは緑、金魚は赤) 動物にはそれぞれの色があるのに、カメレオンには自分の色がありません。行く先々でいろいろな色になってしまうからです。それがちょっと寂しいカメレオンでした。そんなある日もう一匹の年上のカメレオンと出会い、二匹のカメレオンは一緒に暮らし始めます。

時には緑、時には赤、回りの色がどんなに変わっても、二匹のカメレオンはいつも同じ色になれるのです。これは、考え方を変えて幸せになったカメレオンのお話ですが、ちょっと視点を変えてみるだけで、別の世界が見えてくるというのは誰しも経験があることではないでしょうか。

「大人こそ絵本を読もう」絵本はユーモア、悲しみ、思いやりなど人生に大切なものに気づかせてくれるからだ、ノンフィクション作家の柳田邦男氏は呼びかけています。

「人生に三度読む絵本」(柳田)を持っていますか。一度目は子供の時、二度目は親になってから、そして三度目は人生の転機や折り返し地点に立った時、或いは人生の終盤に差し掛かった時かもしれません。

“A color of his own (自分だけの色)”もそんな絵本の一冊。今、ここの気持ちを色で表してくださいと、図書室を訪れる皆さんにお願いしました。「どうしてその色を選びましたか？」理由を添えて自分の色に塗ってください、と。街も山も色づく秋の図書室、いろいろなカメレオンに会いに来てください。

図書室担当 西貝理恵子



<編集後記> 編集長：山田/ 編集：長江、杉山(み)、青山、渡邊

自分だけの色ってなんだろう。好きな色、心を映す色、気分で変わる色。その時その時で変化するのかなあと思いますが、どうでしょうか？そう考えると人間もカメレオンみたいですね。私も心の色は変化します。みなさんの“自分だけの色”は何色ですか？ときどき今の自分に問いかけてみるのもいいですね。

KOKUSAI KOTOKO GAKUIN GROUP
学校法人 国際ことば学院グループ

COLLEGE OF FOREIGN LANGUAGES
国際ことば学院外国語専門学校

〒422-8062 静岡県静岡市駿河区稲川3-9-4 TEL:054-270-7091 / FAX:054-286-7091
WEBSITE: <https://sp.kotoba.ac.jp> E-MAIL: ask@kotoba.ac.jp

JAPANESE LANGUAGE SCHOOL
国際ことば学院日本語学校

〒422-8076 静岡県静岡市駿河区八幡3-2-28 TEL:054-284-8383 / FAX:054-284-8338
WEBSITE: <https://jp.kotoba.ac.jp> E-MAIL: info@kotoba.ac.jp

MT.FUJI JAPANESE LANGUAGE SCHOOL
富士山日本語学校

〒416-0944 静岡県富士市横割1-6-16 TEL:0545-30-8680 / FAX:0545-30-9558
WEBSITE: <https://fujisan.kotoba.ac.jp> E-MAIL: fujisan@kotoba.ac.jp